

一日一日の積み重ねが味を決める！ ～オリジナルブランドの確立を目指して～

豊橋市 川合 ^{ひろひさ} 宏尚・^{たかあき} 健晃 さん（マルカワ園芸）
果樹（みかん）

【平成 25 年 4 月 15 日掲載】

豊橋市で親子 2 代にわたりハウスミカンを栽培するマルカワ園芸の川合宏尚さん・健晃さん親子を紹介します。味にこだわったマルカワ園芸は、蒲郡市と浜松市（旧三ヶ日町）という 2 大柑橘産地には生まれながらも地元の消費者を中心に人気を集めています。また、最近ではインターネット販売にも力を入れており、全国にファンを増やしています。

ハウスミカン栽培の開始

高校入学時には、就農を決意していたという宏尚さんは、卒業後に静岡県の柑橘試験場での研修を経て、昭和 54 年に実家であるマルカワ園芸に就農します。当時、マルカワ園芸では露地ミカン^①を 2 ha 弱栽培していましたが、全国的に生産過剰で、販売価格は毎年のように下落を続けていました。

「このままでは露地ミカンでは食べていけなくなる。」と危機感を抱いていた宏尚さんは、蒲郡市で栽培面積の増加していたハウスミカンの栽培開始を決意します。既に栽培を軌道に乗せていた同窓生もいたのに加えて、同じ地区内にもハウスミカン栽培を開始した生産者がいたことから、大きな不安はなかったそうです。



マルカワ園芸川合宏尚さん（左）と
後継者の健晃さん（右）

攻めのハウスミカン経営

昭和 57 年に 15a で開始したハウスミカン栽培でしたが、販売が予想以上に好調なため、次年度にはハウスを増設します。10 年後の平成 4 年には、67a にまで面積を増やし、まさに「攻め」のハウスミカン経営を続けます。

しかし、平成 16 年頃よりハウスミカン経営のアキレス腱ともいえる重油代が上昇し始めます。平成 18 年には 70 円/l を超え、全国的にもハウスミカンの栽培面積が大幅に減ってしまいます。宏尚さんは、自ら作るハウスミカンの需要には手ごたえを感じていたため、なんとか続ける手立てを探っていました。そこで注目したのが、バラ栽培では一般的となりつつあったヒートポンプ式エアコンでした。ただ、バラ栽培よりも施設内環境が苛酷な果樹栽培での使用例はほとんどなく、ハウスミカン先進地の蒲郡でも試験導入を検討している段階でした。



設置されたヒートポンプ
（温度ムラを防ぐため、吹き出し口をダクトで延長）

しかし、宏尚さんは、重油価格次第では、1年でハウスミカン経営が行き詰まると認識していたため、所有ハウス全棟への導入を決断します。現在では、重油使用量が導入前の半分以下にまで削減されているそうです。もちろんトータルでの暖房コストも削減されていますが、「重油価格に左右されることなく、加温を決断できるので精神面で楽になった」と導入後のメリットを話してくれました。

後継者の就農とインターネット販売

ヒートポンプ導入後の平成21年には、ハウスミカン栽培の研究で有名な愛媛大学を卒業した健晃さんが後継者として就農します。実家のハウスミカンをより多くの人に知ってもらいたいと在学中よりマルカワ園芸のホームページ作成にとりかかり、就農後も作業の合間を縫ってホームページを更新したり、インターネット販売について独学で学んだそうです。そして、就農の翌年には、インターネットでのハウスミカン販売を開始します。販売初年度こそ苦戦したそうですが、その後は、順調に取り扱い量が増えており、直売比率の向上に貢献しているそうです。

マルカワ園芸オリジナルブランド

川合さん親子は、類似品があふれているインターネット販売を行なう中で、商品の『特色』を出すことが大切だと考えるようになります。

特にマルカワ園芸では、ハウスミカン栽培では珍しくエコファーマーの認定を受けているように、環境に配慮した栽培を続けてきました。また、「一日一日の積み重ねが大事」と宏尚さんがいうように、一本一本の樹を見ながら丁寧な管理（摘果、オリジナル配合肥料の施用等）を心がけてきました。そのため、ホームページ上でこうした栽培に対する当園の姿勢を紹介するとともに、ハウスミカン「蜜ツ星」と名づけて販売しています。

「ブランドはすぐに完成するものではないので、少しずつ価値を高めていきたい。」と後継者の健晃さんが語ってくれました。現在、「蜜ツ星」以外にも、マルチ栽培で味を凝縮させた露地ミカンの「蜜ツ丸」を販売しています。



摘果作業の真っ最中



オリジナルブランド
のハウスミカン「蜜ツ星」



加温ハウスを利用して
苗木の早期育成中

周年供給を目指して

今後の目標について、「現在のマルカワ園芸では、7、8月のハウスミカンと11、12月の露地ミカンしか商材がない。ホームページを訪れた人がいつでも購入可能な商材があるのが理想。」と健晃さんが話すように、現在は、1月～4月に出荷可能な柑橘類の試験栽培を行なっています。今後もマルカワ園芸さんの取組から目が離せません。

「マルカワ園芸」ホームページ → <http://www.marukawa-engei.com>

執筆：農業経営課

取材協力：東三河農林水産事務所農業改良普及課